



だから、目を覚ましていなさい。
いつの日、自分の主が帰って来られるのか、
あなたがたには分からぬからである。
マタイによる福音書 24章42節 ・ 新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章 15節



今日、私たちに与えられたこのみ言葉を人の思いで受け止めようとするなら、目覚めていることが目指すべきことと考えられるでしょう。しかし私は、ゲッセマネの園での一場面を思うのです。イエスが捕えられ、十字架にあげられる直前、弟子たちに「目を覚ましていなさい」と告げられたイエスは、少し離れたところで祈されました。ところがしばらくして戻ると、弟子たちは睡っていたのでした。同じように今日「目覚めていなさい」と言われているのですから、ゲッセマネで弟子たちが睡ってしまったように、私たちもまた目を覚ましていないということでしょう。

「目を覚ます」というと、それは人が目を覚ましているか、それぞれの行動、あり方にかかっているかのように聞こえます。しかしそれが「罪」であるとするならば、行動以前に私たちは誰もが「目を覚ましていられない」存在にすぎないということがわかるのです。つまり「目を覚ましていなさい」とは、私たちが頑張って目を覚ましていることを言っているのではなく、私たちが神にあってはじめて目を覚ます一人ひとりとされること。これに気づくようになることが期待されているのではないでしょうか。

最後に、37節、39節にある「人の子が来る」という言葉に、目を向いたいと思います。ここで「来る」と訳されている言葉は、例えば44節で用いられる一般的な「来る」とはちがう言葉が使われています。それは「アドベント」「到来」「再臨」という意味を持つ言葉で、ここでは「来る」と訳されているわけですが、「ギリシャ語辞典」によると、それらは第二の意味と位置づけられていることがわかります。

これに対して、第一の意味として示されているのは、「そこにいること」「臨在」ということなのです。つまり、再臨の主は天から来てくださるのですが、再臨の時まで私たちと一緒におられない。空白の期間があるということではないということです。地上におられた時も、天に帰られた後も、再び来られる時も、変わらず私たちと一緒におられる方であるということが言い表されているのです。それなのに、私たちが目を覚ましていないために、それがわからないということではないかと思うのです。ですから「目を覚ましていなさい」とは、「今困難に直面するあなたと共におられる主を知れ」ということに違いないのです。

目の前にある現実だけを見て、諦め、前向きに夢を見、幻を見ることが出来ない私たちがいます。しかしその私たちの弱さにこそ、主は十分に働かれるのであって、その主に希望を見いだし、その主にあって夢を見、幻を見るならば、私たちは強いのです。これこそ「目を覚ましている」ということです。

私たちは現在、牧師不足、信徒の高齢化、経済的逼迫など、たくさんの課題を抱えています。そのような私たちに、主は教会の暦における一年の始まりに「目を覚ましていなさい」。そのように課題をかかえて立ちすくむあなたたちと、私は共にいる。目覚めてこのことを知りなさい」と呼びかけているのです。目の前に見える現実によってではなく、そこに渦巻く課題があるからこそ、十分に働かれる神への希望によって、勇気を得、私たち地区にある12の教会の教職信徒は、5つの園とともに祈りを合わせて、新しい夢を見、幻を見てまいりましょう。（待降節第2主日）

半日修養会 「解き放たれて利他へ」

～江藤直純先生を迎えて、「キリスト者の自由」を

●11月16日（日）江藤直純先生が藤が丘教会にお越しくださり、「解き放たれて利他へ」と題して礼拝説教、そして「その実践」というテーマで午後の修養会で講演をしてくださいました。

田村さんから引き継ぎ、江藤先生と7月よりメールで色々ご相談させていただき、先生のご専門のひとつであるルター研究からルターの提唱する「キリスト者の自由」とはどのようなことなのか、そしてそれを具体的に実践して生きるということについてお話ししてくださいました。そして当日は説教で自己中心性から解き放たれて、喜んで他者に仕える生き方を、そして午後の講演でその生き方への具体的な例を分かりやすく語ってくださいました。その後4名ずつの小グループに分かれて分かち合いの時を持ち、最後に先生が纏めてくださいり、豊かな学びと交わりの一日になりました。

藤が丘教会には江藤先生の教え子さんや、先生と長くお親しいお交わりをされている方もあり、当日は22名の方が礼拝に続き修養会にも参加しました。（○藤○理）

●“解き放たれて利他へ”というタイトルのもと、主日礼拝説教と修養会の二本立てで江藤直純先生から素晴らしいお話を聞く機会を得る事が出来ました。

感謝と共に自分の理解のために簡単にお話を辿りました。

～何から解き放たれるのか
カラノ自由～病気 貧困 政治的・社会的・
軍事的からの自由、加えて
精神的・内面の危機というあらゆるネガティブなことからの自由、さらに掘り下げて、キリスト者として自己中心性、己の罪深さから

の解放。

～解き放たれてキリスト者の自由とは
キリスト教的人間は、全てから解放された。
自由にされた「それゆえ」、仕える、奉仕する、利他的になることへの自由を生きる。

～解き放たれて利他へ～その実践にあたり理解すべき7つのこと

- 1 他者との交わりを通じ、利他の他と己の一体性を認識する。
- 2 「私たち」の延長線を伸長させる、共に生きる人々の範囲を拡大するほど心は豊に。
- 3 スルナカレの神の戒めの先にある「かえって」という義へ行為の招きに心を傾ける。
- 4 社会的弱者への配慮は憐憫からではなく、人権と人間の尊厳の括りで捉える。
- 5 隣人への人助け＝共立（共に立つ精神から）表層的援助より問題の解決を共に図る。
- 6 「愛する」を言い直すと、全面的な肯定、理解、共感、仕える、祈る

*切支丹の時代の愛するとは、具体的な好意を持ってお大切にする（人格・人間性・命）

- 7 ボンヘッファーの奉仕 ①傾聴 ②手の奉仕 ③他者の重荷を負う（自分も負われている）
究極的に最高の奉仕は、「神の言葉を持ってする奉仕」「み言葉を述べ伝える奉仕」（鈴○○子）



●CSだよりこども祝福式／アドベントカレンダー作り

●2025年11月9日、この日の第1・第2礼拝にて、小児祝福式が行われました。

当日は、「神は生きている」と題された佐藤先生の主日礼拝の説教にヒントをいただいて、9時からの礼拝は“いかなるところにあっても神さまが、人々を、私たちを愛し支えていておられる”ということを考えました。

第1・第2礼拝合わせて6人の子どもがひとりひとり、佐藤先生からキャンディレイをかけていただき、神さまの祝福をいただきました。

子どもたちが心身とも健やかに成長していく姿をみるのは、教会学校にかかわるすべての担当者にとって、大きな喜びであり、毎週日曜日に、子どもたちに会うことが楽しみになっています。いつも、守り支えてくださっている神さまに感謝するとともに、これからも、神さまが子どもたち一人一人と共にいて、祝福をえてくださいますように、お祈りいたします。 (山○○子)

●11月の教会学校でアドベントカレンダーを制作しました。待降節第1主日（11月30日）には8枚のカレンダーが仕上がり、子どもたちが自宅に持ち帰りました。カレンダーのために教会の皆さんからポチ袋をご提供いただき、プレゼント詰めにもご協力を頂きましたことに心からお礼申し上げます。 (○野智○子)

■（左写真）第一礼拝での祝福式の様子

（右写真）手作りアドベントカレンダー完成。記念に一枚。



今月、受洗記念日を迎えた方

2日:○野○之兄 5日:渡○功兄 8日:○○基姉、○田○和子姉 12日:○藤○子姉 17日:○井○樹兄
18日:永○○子姉 19日:○林○太兄、山○○子姉
○野唯兄、篠○○子姉 20日:吉○○杷子姉、小○め○み姉、○嶋○芳兄 ○田○生兄 21日:○利○子姉、○井信○兄、○○子姉、○谷○一郎兄、五
十嵐○兄、○山○明兄 勝○○子姉 22日:○谷川
○瀬○美姉、田○萌姉、市○○江姉、秋○○子姉
秋○○子姉、○原○雪姉、尾○○壽兄 23日:松
○○子姉、小○美○子姉、犬○○一兄、○藤満
兄、伊○恒兄、○野心兄、○野昇兄、栗○○子姉
24日:野○○子姉、○谷○子姉、佐○○子姉、佐
○○洋兄、佐○○洋兄、○野麻○姉、○山○郎兄
○山○子姉、○山楠姉、○山桐兄
25日:○木○子姉、○村○子姉
○岡○子姉、○原ち
え子姉、○原○太郎
兄、江○○子姉、松
○○宣兄、○藤○実
姉、上○○美姉、定
○○子姉

おめでとうございます。

わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ローマの信徒への手紙12章15節

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



●女性会だより

11月23日 女性会参加者 10名

司会、祈り 山○姉

讃美歌 357番

1 聖書の学び 「あふれるほどに量りを
よくして」

ルカによる福音書6章37節～42節

2 女性会例会

①11月15日 信徒の集い（市ヶ谷）報
告 ○山姉、○井姉参加

②在り方検討委員会報告に対する意見書
について

③女性会からのクリスマス献金について
次回は12月7日 女性会総会

